

府県向け

トウモロコシ新品種の紹介

1 はじめに

昨年は全国的に台風が上陸・接近した回数が多く、倒伏の被害が目立った年でした。

私共の試験地での台風情報（最大瞬間風速）は以下の通りです。

| | | |
|----------|------|---------|
| 千葉市：台風6号 | 7/11 | 18.9m/秒 |
| 台風7号 | 7/16 | 13.3m/秒 |
| 都城市：台風5号 | 7/5 | 18.3m/秒 |
| 台風9号 | 7/26 | 30.7m/秒 |
| 台風15号 | 8/31 | 28.3m/秒 |

関東以北では、病害の発生は軽微でしたが、青森県のみやませ地帯では、すす紋病とごま葉枯れ病が併発しました。一方、西南暖地では夏季の夜温が例年より低めだったことから、ごま葉枯れ病の発生が少なく代わって、南方さび病が発生しました。収量は倒伏の被害を除けば、各地とも平年並みでした。

当社はこのような厳しい環境の中で府県に適する品種試験を実施した結果、良好な結果を発揮した2品種を平成15年春から新発売します。ここではその特性と上手な利用について、ご紹介いたします。



写真1 スノーデント114の草姿

2 スノーデント114(RM114, DK708)

スノーデント114（試作系統名：SH2608）は平成15年から府県全域で新発売され、主な特性は以下の通りです。

- 実入りが良く、高TDNなトウモロコシ。
- ごま葉枯れ病とすす紋病に耐性がある。
- 黒穂病や根腐れ病にも抵抗性である。



写真2 スノーデント114の雌穂

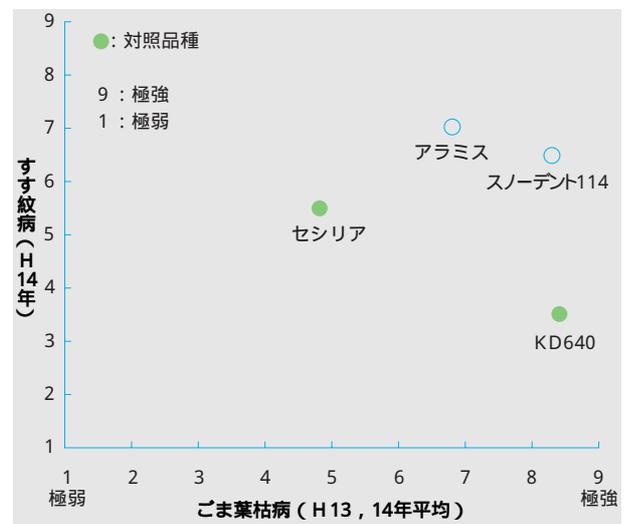


図1 スノーデント114の耐病性 (十和田試験地)

草姿は写真1，実入りの良さは写真2に，病害耐性は図1にまとめました。

対照品種のセシリアより実入りが良く，ごま葉枯れ病に強いこと，KD640よりすす紋病に強い特性を持っています。

==== 東北・関東での利用 ====

スノーデント114は桜の開花が終わる時期の早播きで，安定多収の特性を発揮します。早生品種なので，実入りを良くするため関東は4月末までに播種を完了するのが良いでしょう。播種量は6,500粒/10aで畦幅75cm，株間は20cmが標準となります。

病害に極めて強いので，ごま葉枯れ病やすす紋病が併発しやすい東北・高冷地はもちろんのこと，連作で根腐れ病が出やすい場所でも安定した生育が期待できます。東北の成績は図2に，関東の成績は図3にまとめました。

==== 西南暖地での利用 ====

西南暖地ではトウモロコシの二期作が行われていますが，スノーデント114は3月下旬から4月上旬

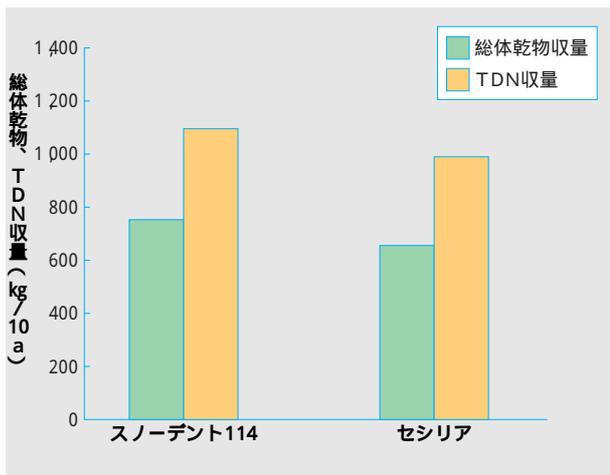


図2 スノーデント114の多収性 (十和田試験地 平成13年)

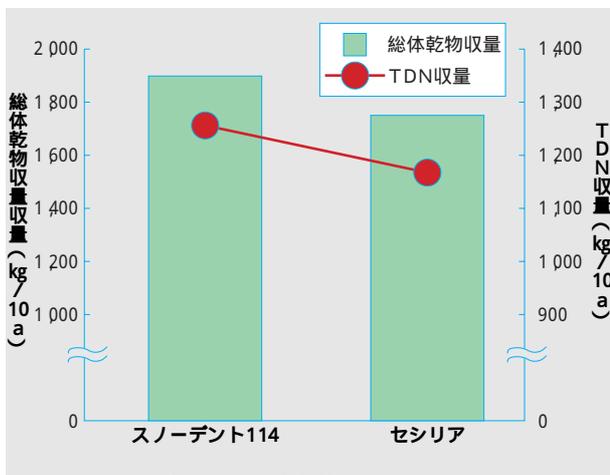


図3 スノーデント114の多収性 (千葉研究農場試験地 平成12～13年の平均値)

の一期作目に最適です。この時期に播けば7月中旬に収穫が可能となります。

播種量は実入りを良くするため，密植を避けて6,500粒/10a，畦幅75cm，株間20cmがお勧めです。収量成績は図4にまとめました。

3 スノーデント118(RM118,DKC61-24)

スノーデント118(試作系統名:S H2724)は平成15年から東北・関東管内で新発売され，主な特性は以下の通りです。

なお，西日本では平成16年からの販売を予定しております。

実入りが良く，雌穂が大きい

茎の糖含量が高い。

ごま葉枯れ病やすす紋病は33G26より強い。

大型で太茎な草姿で，乾物収量は33G26やNS80A，セシリアより多収である。

草姿は写真3，ごま葉枯れ病と茎中のブリティクス糖度は図5にまとめました。

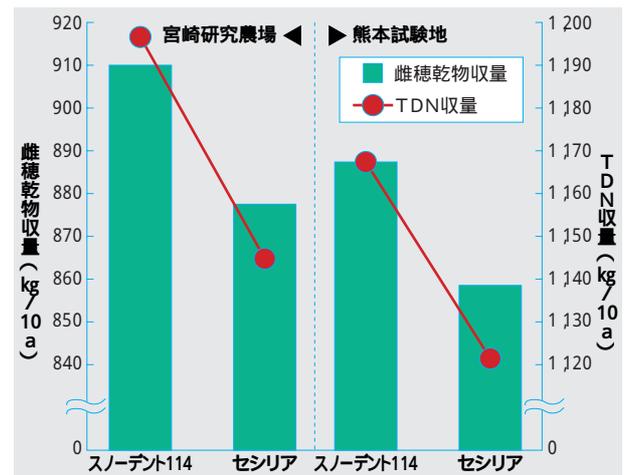


図4 スノーデント114の収量 (宮崎研究農場, 熊本試験地 平成13～14年の2か年の平均値)



写真3 スノーデント118の草姿

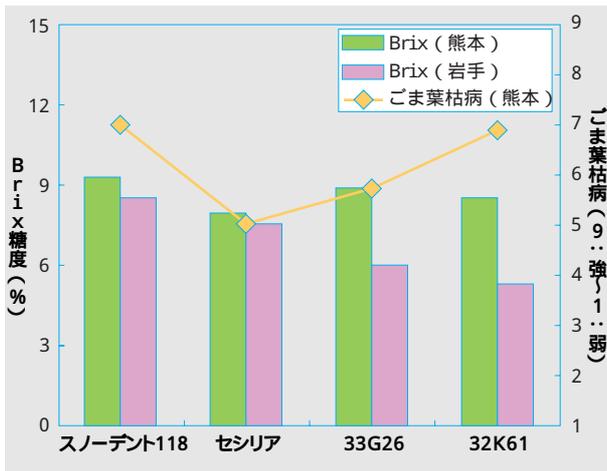


図5 スノーデント118の茎葉枯病抵抗性と茎中Brix糖度 (平成13, 14年平均)

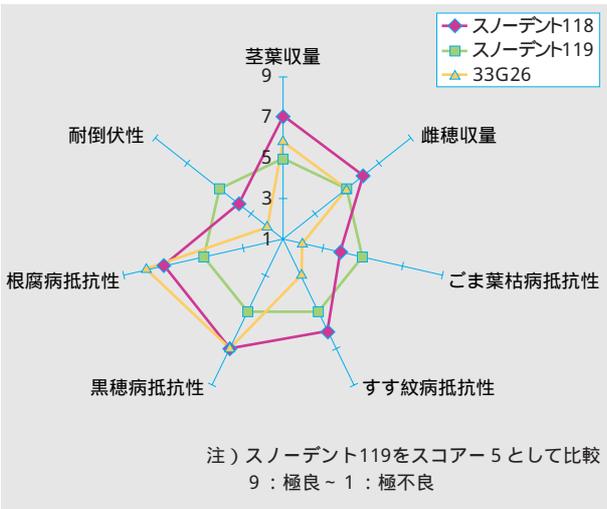


図6 スノーデント118、スノーデント119、33G26の特性比較

図6は対照品種の33G26や旧系統のDK652と主要特性を比較したレーダーチャートですが、病害に強く多収な品種であることがわかります。

==== 東北での利用 ====

東北中部～南部が栽培適地です。実入りを確保するためには、密植を避け畦幅75cm, 株間20cmが標準です。

播種粒数は6,500粒/10aで、スノーデント114同様に桜の開花に合わせて早播きします。遅まきは牧草の一番草収穫後の6月上旬までに播き終えて下さい。収量は図7にまとめました。

==== 関東での利用 ====

関東でも1クラス上の乾物収量を発揮しますので、早播きで密植をさけて東北同様な密度、播種量をお勧めします。収量は図8にまとめました。

遅まきすると実入りが悪くなりますので、関東では遅くとも5月上旬までに播き終えて下さい。また本品種は北関東で発生する黄化病にも強いので、安

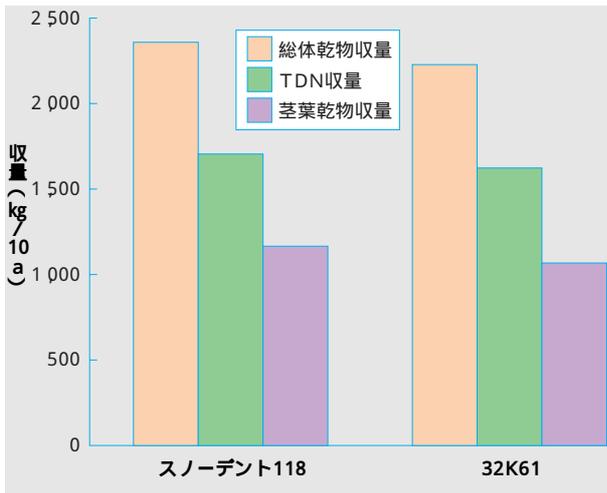


図7 スノーデント118の収量 (岩手試験地 平成13年)

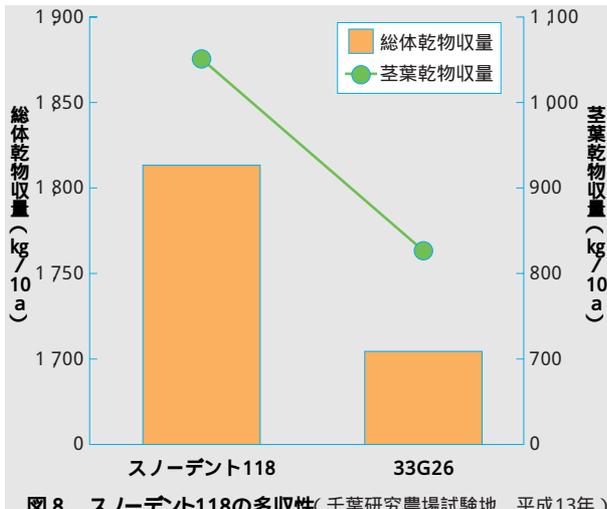


図8 スノーデント118の多収性 (千葉研究農場試験地 平成13年)

心してご利用いただけます。

以上のとおり、実入りと耐病性、収量性を強化した2品種が、皆様の安定した飼料生産に貢献することを期待しています。

4 窒素と加里過剰について

乳牛の多頭化に伴い、排出される糞尿量が増大して、施肥基準以上に圃場に投入されるケースが増えています。その結果として、土壌中の窒素と加里が過剰となり飼料中のミネラルバランスが崩れる事例が報告されるようになりました。特に加里過剰の飼料は、CaやMgの含量が低下していることが多く、これが乳牛の生理に影響を及ぼすようです(低Ca血症：乳熱，起立不能)。

自給飼料は自分で品質をコントロール出来るのがメリットですので、普及所の粗飼料分析・土壌診断を受けて現状を把握すると共に、施用する化成肥料を調節して堆肥投入量とのバランスを取ることが大切です。